

令和2年度第2回海上の森運営協議会 議事録

日時：令和3年3月16日（火）

午前10時00分～午前11時30分

場所：あいち海上の森センター 3階 研修室

出席者：青山裕子委員、池竹克年委員、石川明博委員、浦井巧委員、
大谷敏和委員、高野雅夫委員、田中隆文委員、森眞委員（五十音順）

1 あいさつ

あいち海上の森センター所長 栗田 悟

2 協議事項等

(1) 報告事項

ア 令和2年度海上の森保全活用事業の取組状況について

イ 海上の森自然環境保全地域維持管理事業について

(2) 協議事項

ア 海上の森保全活用計画2025の進捗管理について

イ 令和3年度の海上の森保全活用事業の実施計画

(3) その他

「(1) 報告事項 ア、イ」について、事務局から説明

【座長】今年も様々な取り組みをいただきました。どこからでも質問などございましたら。

【委員】ギフチョウの保全の資料の一番最後のところ、12月11日に研修で県職員の方21名が参加されていますが、これはどんな形でやられたのですか。結構大人数ですけど。

【事務局】基本的には手鎌で笹を刈る作業を行いました。

【委員】呼びかけをして集めたのですか。

【事務局】環境局の職員で希望者を集めてやりました。県庁内の方にも来ていただいたり、出先の部署の方に来ていただいたりしました。

【委員】それは業務としてやったのですか。

【事務局】業務としてです。事務所の職員も地域の方々と保全活動に関わることがあると思いますし、そういうところで「何もやったことがない」という状態だったので、環

境保全活動を実際にやったり、研修室を借りて里山保全についての座学の研修をしたりしました。

【委員】そういうことをやるのは初めてですね。

【事務局】そうですね。こういう形でやったのは初めてです。

【委員】ぜひ今後とも続けてほしいですね。いろんな人に出てもらって経験してもらいたいと思います。ぜひ続けていってください。

【座長】せっかくなので市民の方といっしょにやるとかね。とてもいいことだと思います。

【委員】この「大学」というのは、南山大学とか名古屋工業大学とか書いてありますが、他の大学の参加はないのかな、と思いました。いろんな大学に参加してもらいたと思います。

【委員】2016年のところですね？

【委員】はい、2016年のところです。

【事務局】南山大学さんは、今はちょっと繋がりがいい状態ですね。

【委員】繋がりが切れてしまっているのはなぜなのかなと思います。

【事務局】ただ、今は環境に関心のある学生さんを集めたつながりもできているので、そういったところに声をかけてやっていくのもいいのかなと思います。

【委員】そういう繋がりを大切にしていってほしいなと思います。

【委員】別紙3の屋戸湿地の図で、左下・上のほうに「全伐」と書いてあるのですが、伐採した雑木などを土堰堤のところにすべて積んである状態です。こういったものはちょっと気になっているのですが、その影響はどのように考えていらっしゃいますか。

【事務局】影響といいますと、表土のほうに流入するということですか。

【委員】そうですね、そこからまた豊栄養のものが湿地に流れ込んできたりすることなどが気になります。これからどんな影響が出るのかや、取り除いたほうがいいのかなど、どのようにお考えですか。

【事務局】我々も、ずっとその場所に置いておくのは良くないことだと思います。

【委員】そうですね。

【事務局】移動させたいとは思っております。ただ、タイミングや場所などの問題があり、場所が確定しないと動かせないので、そのあたりは教授と相談して。今年の冬に伐採を進める計画をしていますので、それまでには場所を確定して動かしたいと考えています。

【委員】量的には相当な量なので、人ではかなりいるので大変な作業だと思います。

【事務局】学生さんに協力を求め、頑張りたいと考えています。

【委員】名古屋工業大学の説明資料の2枚目のところで、「調査月ごとに確認された種と総数」とありますけど、これは面積はどれくらいですか。

【事務局】1m四方のコードラートを9か所設置していますので、その合算です。

【委員】その9か所だけ、ですね？

【事務局】四角の中で確認をしました。

【委員】9か所全体でね？

【事務局】はい。

【委員】伐採した跡地の面積はどれくらいあるのですか。全体での。

【事務局】正確なところは覚えていないのですが、9平米よりもかなり広いです。その中で水路に沿った形でコードラートをとって、水と接している部分で今回は調査しています。

【事務局】今年やったところの面積が載せられていなのですが、2019年にやったところ、オレンジ色で示したところは約22平米くらいですので、それで2020年にまた行って、30平米か40平米くらいになっているのではないかと思います。

【委員】全体的には、コードラートで確認した面積倍はあるということですか。

【事務局】はい、そのように考えています。

【座長】この図にコードラートの位置をかいてもらおうとよかったかと思います。

【委員】資料2の「シデコブシの保全地域」のところですが、シデコブシに限らず、先ほどの貧栄養湿地の説明のところにも関係するかもしれないですが、シデコブシを保全するにあたって除伐を繰り返してどんどん人手をかけ続けて、それをどこまでやるのかな、という疑問があります。自然な状態でシデコブシがここまで存続していくのか、そもそも土砂の流出だとか自然に起因されて増えていくところもあれば、洪水など水の流

れで改善されたところにまた出てきて、ということを繰り返していると思うのですが。除伐だけを同じ場所でずっと続けていくのか、そのあと広い海上の森内で適当な時期に適当な場所で人為的に新しい環境を創出するなど、除伐を続ける以外にも新しいシデコブシなどのハビタット（生息地）を作るような。そういったところまでできるかどうかかわからないですけど、そういうことも念頭に置いて今後やっていけたらいいのではないかなと思いました。そのあたりに関して、ご意見だとか、「今のところ白紙」といったことがあればお聞かせいただきたい。

【事務局】確かに、今は日照の改善ということを目的として除伐をやってきていますが、新しいハビタット（生息地）ができると個体の更新という意味でも効果がありそうだなと思います。そこまでできるかというところがありますけれども。

【委員】まだ始まったばかりでもうそこまで考えるというのもどうかと思いますけれども、そのあたりを念頭に置きながら「どんな環境が創出できるか」ということをアンテナ立てながら作業をしていくと、もしかしたら今後創出の部分での条件のヒントになるのではないかと思った次第です。

【座長】大事な問題提起をいただいたかと思うのですがけれども、コストと人手をかけ続けないと保全活動ができないのか、それともあるところで自然にかえしていくのか。ずっとコストをかけ続けるのは無理なので、どこかで手を放していくという保全活動のあり方も考えていく必要があるのかなと思います。そういう意味で少しご検討いただけたらと思います。では、この報告につきましては以上ということにしまして、次の「協議事項」に移りたいと思います。

「(2) 協議事項 ア、イ」について、事務局から説明

【座長】では、どちらからでも結構ですのでご質問があれば。

【委員】資料3と次年度の予算計画、資料1もそうですけれども、これを対応してみるとよりわかるのかなと思います。例えば今の予算ですけれども、どこも下げられて、企業連携でも企業の撤退も予想されるところが今後も増えていくだろうと。自分の団体もそうですけれども、そういった中で、資料3で大きく3つに分けた保全と拠点と共同連携というのがこの予算の推進事業費のアイウとほぼリンクしているような感じで見ればよろしいでしょうか。

【事務局】そうですね。アは保全のために使うものです。あいち森と緑づくり税とかそういうところが人材育成として新しく加えていただいて、当センターとしてもそこで人材育成をできるような基礎作りをしていきたいと思っております。

【委員】表をみていて、たとえば保全であいち森と緑づくり事業はやっていたとしても、前年度よりも150万もマイナスになるのかと思いますし、次年度のプランもスリム化し

ないといけない、いろいろ整理しないといけないかと。たとえば人材育成の中でそういったあまりお金をかけなくても、やる気や生きがいづくりといったことでお手伝いしていただけるような方の創設をすとか、新しいアイデアといったものを、SDGs にもからめながら作っていけるといいなと思って。調査研究も 50 万も減るのか、とか、人材育成も 50 万も減るのか、とか。直近ですけどこの 2 年間くらいはどんな計画でいくのかというところをじっくり見てしまうというような感想をもってしまいます。

【座長】ありがとうございます。予算の推進事業費がかなり減っているのですけれども、これはなぜですか。シーリングですか。

【事務局】コロナの影響もありまして、やはり収入が結構厳しいです。コロナ関係に予算をつけるためにそれ以外の部分はほぼ全部抑えられているところがありまして、大きく減らされました。

【座長】それは今年度、コロナの特別なものなのか、それともずっと続くものなのか。

【事務局】何とも言えないところです。やはりコロナは今後も続いていくと思いますので、続いていくかなと思います。

【委員】税収がないですからね。

【事務局】愛知県も税収によって執り行われておりますので、必要なところ、コロナなど影響は出てくると思います。その分、当センターの良いところは、自主的に活動していただける方がいまして、ミニセミナーでは講師料無しでやっていただいても人を集めていただけている。団体につきましても、協力団体が出てきている傾向は本当に良いことだと思います。ただ、やはり公費で出せないというところは心苦しいところがあります。

【委員】関連しますけど、資料 3 の「改善」のところを見ると、ほとんど予算縮減に伴う事業縮小とか事業中止などがたくさん書いてありますけど、これは改善策とは言えないと思います。1 つの方法として、あいち森と緑づくり事業は同じペースで実施されていますけれど、海上の森アカデミーはこれでやっているということですよ？

【事務局】はい。

【委員】そうすると、たとえば調査学習会がなくなっていますよね。これまで 1 回やっていたものがなくなっていますけど、これを森と緑づくり事業でできないかと。森と緑づくり事業でやれるものがあるならば、できればそちらに移行してはどうか。

【事務局】ここには具体的に書いていないですけど、森と緑づくり事業で対応できるものは対応しています。緑化推進費でやっていないが森と緑づくり事業でやっている、ということもあります。自主的な事業で調査学習会に代わるようなものを学生さんとかと

連携してやる、という方法はやっております。

【委員】今回、展示をさせていただいております。ポスター展を12団体でやっています、Facebookで記事を見るたびに「いいね」を押して拡散しています。どんどんそういったものが広がっていくと、たとえば「餅は餅屋」でその団体の得意な分野で、この森に関わっていらっしゃる方に何か提供できるサポーター的なことができないかとか、うちの団体ですとお金をいただくとは思ってなくて、何かそういったサポーターとして連携事業で1回くらい森のようちえんさんと一緒にやってみるとか、つながりをどんどん広げていくという感じで、組織を下支えできるような小さな工房的なものがどんどんインターネットを通じて、将来的にはオンラインで何かできたらいいなど。すぐできないと思われるでしょうが、夢を持って行かないと、将来的な計画が楽しくない。なので、そういったFacebook等で広げながら、どんどんその人たちが横でつながるような仕掛けづくりをしていただいて。失敗してもまたいいアイデアが出るかもしれないので、少し踏み込んだこともできていくといいなと思いました、ポスター展示を本当に応援して協力していきたいなとつくづく思っていて、「いろんな団体さんがいるな」「横でつながりたいな」と思っているところです。

【座長】ありがとうございます。その通りですね。今回のポスター展で、センターはどのような形でコーディネートしたのか、少しお聞かせいただいてもいいですか。どういう呼びかけをしたのかとか。

【事務局】昨年度は今年度と違って活動がコンスタントに行われたので、活動している団体さんを中心に声をかけて出させていただきました。今年度は活動が休止になってしまった団体さんがほとんどだったので、「ぜひ出ていただきたい、つながっていただきたい」というセンターの要望を交えつつ行い、最終的に12団体に出展いただきました。

【座長】団体同士が交流する機会など今回はあったのですか。

【事務局】今回はコロナ対策もあるので、一堂に会してとか、ポスターの紹介を設けるとか、そういうところは避けた部分があります。その代わりに、「オンライン展示」としてFacebook上に1日1団体を取り上げさせてもらって見ていただくという形をとりました。他にもやり方があったのかもしれませんが、今後も良い形でできたらなと思っています。

【委員】そういう団体さんがZoomでつながったりしながら、それぞれ色々なことの魅力が増えていくと思いますので、やっていければ良いのではないかとすごく思います。

【座長】まさにコーディネートするのがこのセンターの役割だと思うので、ぜひ引き続きやっていただければと思います。他にいかがでしょうか。

【委員】関連で。私も2枚資料を配ったのですが、万博のときはみんな熱く語っている

んな人が意見言いましたけれど、だんだんと冷めてきて、10年たつともう風化しているなと思います。海上の森の会の人もすごく頑張っているけれども、「年齢的にいつまで続くのかな」と。続くだろうと思うのだけれども、昔の熱意が伝わるのかな。そういう意味で、どこか海上の森をずっと続ける組織などがつながりを作っていかなきゃいけないと思います。ポスター展示はいい取り組みで、Zoomでつながるといのもいいと思います。私たちが調べて、学校教育というのは、学習指導要領とうものがあるんです。それが2020年度から小学校が大改訂しました。「生きる力」というんです。やっぱりこれからの時代は複雑で、生きる力をつけなきゃいけない、そのための生きる力をどうするのかということが小学校の大改訂です。その中で小学校第3年のところですが、「興味関心をもって」「愛護する態度を育てる」と書いてあります。これ学校教育ではとても難しいです。それで、文科省のところで「保護者の皆様へ」として「家庭や地域の皆様の協力が欠かせません」と書いてあります。そうやって地域の力、学校と地域の連携を築かなきゃいけない。それから自然環境課が「自然環境読本」というものを作って各学校に配布されましたが、担任の先生はあれをやる時間がないです。せっかくいいものがあったても、各担当の課が配って終わりになってしまっている。自然環境課と教育委員会とお互いに連携をとるということがない。なのでどうするかを考えて、学習指導要領を武器に学校に呼びかけようかなと思って、品野台小学校で森づくりをやっている人とコネクトとれました。学校長とPTAと抱きかかえて、学校の森を管理しているということでした。そしたらやっぱり瀬戸市内の学校林をもっている人たちのつながりがあるんですね。東山小学校だとか、掛川小学校だとか。その人を通してまた学校間の連携をとって森づくりの講師を派遣したりということをしてできないかなと思います。私達も海上の森で活動することがやっぱり海上の森を守っていくことじゃないですか。その海上の森で活動する団体をいかに応援するか、それをどうするかということは今考えています。だから海上の森の会の行事にできるだけ参加したりしているんですけども。フォーラムでも、Aさんがすごく頑張ってやっているので応援しているんですけども、これも「Aさんがいなくなったらどうなるのかな」と思ってしまう。そういう長い目で見たら、やっぱり学校関係を抱えるのが一番いいのかなと思います。大学もそうで、さっき南山大学って言っていましたけれども、せっかく掴んだつながりがどうして消えてしまったのかなと。愛工大の繋がりも大事にね。やっぱりつながりが切れたらだめだ、ということをお願いしたいです。で、センスオブワンダーというのは、夏休みに10家族参加されましたが、ほとんどの人が「小さい子らに体験させたい」という考えの人。だから単発で参加してそれで終わり、という人がほとんどでした。そのうち2組はとてもやる気があって、応募がありました。今回は新しい学習指導要領に基づいて考えたつもりですが、一般の人にはなかなか理解されていません。

【座長】 これはもう今週ですね。スプリングセミナーをやる、ということですね。

【委員】 はい、新しい学習指導要領に乗かって考えた行事です。

【座長】学校との連携については、この A3 の資料で「小中学校に関しては学校カリキュラムの関係で学校からの自発的な取り組み以外はこちらから売り込んでも難しい、相談には積極的に対応する」とありますが、これは具体的にどのようなことでしょうか。

【事務局】昔は結構遠足とかで地元の小学校にもご利用いただいていたが、ここ最近では先ほど委員もおっしゃったように学校のほうはなかなかカリキュラムが忙しくて、遠足なり課外授業などをもってくるのは非常に難しいということだったので、逆にそういう相談が学校の先生の方からあれば、そういうものに関してはこちらでも積極的に対応していくということです。ただ、こちらから各学校に営業に回るといことはなかなか難しいと思います。

【座長】営業に回ってもなかなかとりあってもらえない、と。

【事務局】最近、小中学校はなかなかないんですが、大学関係などでは学生さんの実習だとか研究などで海上の森を利用することが多くなってきているので、そういう話には積極的に乗っています。場合によっては職員が現場で対応することもあります。

【座長】私のところの学生がいつもお世話になっております。ありがとうございます。関連で、海上の森フォーラムのご報告を。

【委員】海上の森フォーラムも第4回を迎えまして、報告書を配布させていただきました。昨年は海上の森からの報告ということで、先ほどお話のあった湿地の回復の現況などの話も名古屋工業大学のB先生からいただきました。名古屋産業大学のC先生からは菌従属栄養植物の調査ということで、海上の森の中にそういった植物もありまして、その生育状況の紹介がありました。その中で、菌従属栄養植物というのは「若干暗い森でないと育たない」ということで、逆に明るい森で育つシデコブシのような植物と、こういった植物との共存をどうしていくかということのお話がありました。それから京都大学のD先生は遺伝子解析ということで、植物や動物の生態系や生存状況などが詳しくわかるというお話がありました。ということで報告書を発行させていただきましたので、また目を通していただければと思います。昨年初めての試みで、学生さんに「海上の森を研究してください」ということで募集をかけました。名古屋大学理学部、名古屋大学生命農学研究科の学生さんから「研究します」ということで応募いただいて、来年のフォーラムで発表していただくということになりました。こういった取り組みもフォーラムのほうではやっていきたいと思います。来年度も引き続き同じようなことをやっていきたいと思いますので、若い人の研究の場として海上の森をいろいろと活用していただきたいなという思いでやっていきます。よろしくお願ひします。来年度は11月6日(土)に開催することで決定しておりますので、また詳しく決まりましたらご案内させていただきますけれども、日程をあけておいてください。よろしくお願ひします。

【事務局】1つ管理関係でご報告ですが、県全域で施設の維持管理の計画を立てること

になっていまして、海上の森センターも今年度調査をして、今後維持管理していけば30年近くは持つという結果が出ました。また来年度から具体的な方針を考えていくことになると思います。またご相談をさせてもらうかもしれませんがよろしくお願いします。

【座長】基本的には大規模改修などはせずにやっていくということですか。

【事務局】「今ある施設を長く維持していこう」という方針で県全体でやっているのですが、必要なところは改修していくのですが、壊れたものを直すということでやっていきます。

【座長】修繕でやっていくということですね。

【事務局】基本的にはその方針で行く予定です。まだ細かい方針は決まっていないので、また来年くらいに詳しい話が出てくるかと思しますので相談させてもらうことが出てくるかもしれないです。

【座長】僕も公共施設マネジメントということできくつか関わっているのですが、基本的には床面積を減らしていく方向でいくなかでどういった対応をしていくのか考えなくてはいけないと思います。また来年度その課題でよろしくお願いします。そろそろ時間なのですが、他にいかがでしょうか。1点だけ、「むささびっ子の森開拓団」というのはどういう団体ですか。

【事務局】むささびっ子の森開拓団は、今年度前期で4回、後期で年が明けてから3回の計7回活動をしました。森の中を巡視して、我々職員がやっているような道の修繕や階段づくりなどをしたり、除伐・間伐をしたり、その間伐材を利用してまた何かを作ったりということをやっています。参加しているのが小学校高学年の子供とその親計20名ほどの規模で活動しています。これを主催しているのが「よりあい工房ばんどり」という森の楽校を委託しているところの団体が「むささびっ子の森開拓団」を組織して活動してもらっています。来年度はセンターと企業等連携を結びまして、毎月1回活動する予定で計画を進めています。森の楽校・森のようちえんのような内容よりはもうちょっと山仕事に近いような本格的な林内作業や土木作業が伴うような内容のメニューを考えています。やる内容が初めてのことが多いので、「よりあい工房ばんどり」のスタッフと話し合いをし、プログラムの内容を考えながら参加者に体験してもらうことをしています。

【座長】とてもいい取り組みだと思います。参加者は参加費を払って参加されるのですか。

【事務局】参加費は基本的には保険料の自己負担だけで、あとは無料です。

【座長】ばんどりさんの経費は？

【座長】センターから出しているわけではない？

【事務局】センターからは出ていないので、こども基金など何かしらの助成金は出ています。センターからは職員の技術協力と場所の提供という形でやっています。

【座長】とてもいいお話かと思います。

【委員】これは固定メンバーではないのですか？

【事務局】年1回、年度始めに募集をかけてやるという形です。

【座長】土木作業をしてみて、子供たちの反応は。

【事務局】今年度ずっとやってきて、そんなことをやらせると「面白くない」と言うかと思ったんですけど、普通に山を歩く目線ではなくて山を管理する目線で山を歩いて作業をするというのが非常に新鮮なようで、意外と好評です。

【座長】絶対おもしろいと思います。これはとてもいい取り組みでしかも企業等連携の中でやるということで、1つの今後の方向性を示せると思いますので、ぜひこういう活動を広めてください。

【委員】ぜひこういう活動をする場づくりを。

【座長】では、そろそろ時間になりましたがよろしいですか。他に何か。ではこれで終わります。どうもありがとうございました。

(午前11時30分)